

平成 27 年度公益財団法人沖縄県保健医療福祉事業団事業報告

1 事業概要

平成 27 年度は、沖縄県保健医療福祉事業団（以下「事業団」という。）が公益財団法人に移行して 3 年目であるとともに「沖縄県保健医療福祉事業団中長期計画」の 2 年目でもあり、事業団として公益財団法人にふさわしい役割をより積極的に果たしていくために沖縄県や関係団体との連携の下、健康づくり運動普及啓発事業、臓器移植推進事業、ファミリーハウス事業、勤労者福祉事業の 4 つの公益目的事業の充実を図った。

健康づくり運動普及啓発事業では、沖縄県が策定した「健康おきなわ 21（第 2 次）～健康・長寿おきなわ復活プラン～」を踏まえて、「2040 年に男女とも平均寿命日本一」を実現するため、次世代の健康づくりも視野に入れ、各イベントを通して生活習慣改善のための取組みを推進した。特に発行して 10 年目を迎えた健康情報誌「いきいき健康あいらんど」では時代のニーズに対応した健康づくり情報を提供した。また、テレビ、ラジオによる普及啓発活動を拡充したのをはじめ、地域密着型の県民食育講演会も、県内 4 地域（北部、中部、南部、石垣）で開催した。

臓器移植推進事業では、移植コーディネーター受託事業、医療機関の移植医療体制整備事業や移植推進の普及啓発事業を継続して実施した。なかでも当年度は、臓器提供意思表示の啓発及び促進を目的としたラジオ CM「聞いてみよう、家族の気持ち」を制作し放送した。

ファミリーハウス事業では、離島など自宅から遠く離れ、本島の医療機関で治療を受ける子どもや付き添い家族の経済的な負担軽減を図り、心身ともに安らぐことができる宿泊施設を目指して「がじゅまるの家」の管理運営を行った。開所 8 年目の利用者数は 4,025 人、稼働率は 64.4%となった。

勤労者福祉事業では、勤労者の福祉の向上等に取り組む団体が行う就労支援に対して必要経費を助成し、求職者の就労を支援することで労働者福祉の向上を図った。

平成 27 年度事業の概要は以下のとおりである。

- (1) 健康づくり運動普及啓発事業
 - ア 健康づくりイベントの開催
 - イ 健康づくり情報の提供
 - ウ スマートライフサポート事業
 - エ 助成事業
- (2) 臓器移植推進事業
 - ア 臓器移植コーディネーター受託事業
 - イ 医療機関の移植医療体制整備事業
 - ウ 県民への普及啓発事業
 - エ 日本臓器移植ネットワーク助成事業
 - オ 助成事業
 - カ 賛助会の募集
- (3) ファミリーハウス事業
- (4) 勤労者福祉事業
- (5) 現有資産の活用
- (6) 資金運用

2 事業実績

(1) 健康づくり運動普及啓発事業

ア 健康づくりイベントの開催

(ア) 「いきいき健康あいらんどフェスタ」の開催

健康長寿おきなわを復活するためには、健康づくりに対する若年層の意識改善が重要である。そこで、20代に人気のあるお笑いの要素を盛り込んだ「いきいき健康あいらんどフェスタ 2015」を開催し、健康情報を提供した。

参加者数 延べ1,871人

- ・日 時：平成27年11月8日（日）12：00～16：00
- ・場 所：てんぶす那覇
- ・内 容：

テンプス前広場 ダンスパフォーマンス等を披露するステージや、眠りの駅オリジナル快眠ゆめ茶の振る舞い、いきいき健康あいらんど展示コーナー、大城さとし健康4コマ漫画パネル展を行った。

テンプス 3階 栄養バランス測定、枕診断コーナー(眠りの駅)、健康相談コーナー、筋力バランスチェックのほかにミニワークショップ(スムーズ作り)や自己採血によるセルフ健康チェックコーナーを設置した。

テンプスホール 檜木裕実氏を講師に招き、健康トークとカーヴィーエクササイズ体験や生活習慣病予防フォーラム(講師：医師 崎原永辰)、お笑いライブ、お楽しみ抽選会を行った。

(イ) 「健康づくりライブトーク」の開催

県民の健康づくりの動機づけになることを期待し、平成27年度は“健康の先に夢がある！～今から始めるあきらめない健康づくり～”をテーマに琉球新報社と共催で「健康づくりライブトーク 2015」を開催した。参加者数600人。

- ・日 時：平成27年9月19日（土）14：00～16：00
- ・場 所：ロワジールホテル那覇 天妃の間
- ・内 容：【ミニコンサート】沖縄交響楽団

【第1部】講演「高く遠い夢～80歳エベレストへの挑戦～」

講師 三浦雄一郎(登山家)

【第2部】対談「疑問、質問、聞いてみよう！教えて三浦先生」

インタビュアー：伊是名カエ(管理栄養士・健康運動指導士)

(ウ) 「こころの健康づくりトーク」の開催

青・壮年期のメンタルヘルス対策として、専門家を招き、沖縄タイムス社との共催により「こころの健康づくりトーク 2016」を開催した。

テーマは“悩みやストレスを生きる力に変えて”。参加者数860人。

- ・日 時：平成28年1月31日（日）13：00～15：50
- ・場 所：ロワジールホテル那覇 天妃の間
- ・内 容：【ちいさな演奏会】

オーボエ&ピアノ(チェンバーオーケストラ“イオ”)

【第1部】講演「心の力」

講師 姜尚中(東京大学名誉教授)

【第2部】講演「しなやかな心、3つのSの物語」

講師 山本和義（山本クリニック院長

EAP産業ストレス研究所所長）

（エ）「県民健康フェア」の開催

県民の健康づくりに対する意識の向上と取り組みを促すことを目的に沖縄県医療保健連合（なごみ会）と連携して「県民健康フェア2015」を開催した。

- ・日 時：平成27年8月9日（日）12：00～16：00
- ・場 所：コンベンションセンター展示場
- ・参加者数：延べ1,500人

（カ）食育活動の推進

a 調理実習の実施

健康づくりの視点から体験型食育（調理実習）を沖縄県食生活改善推進員連絡協議会に委託して実施した。

- ・期 間：平成27年8月～平成28年3月
- ・地 域：嘉手納町外7市町村
- ・回 数：9回（参加者計157人）

b 食育講演会の開催

「食」への関心や興味を高めるために地域で食育講演会を開催した。

- ・平成27年5月25日（月） 13：00～15：00
開催地：石垣市 講師：徳元佳代子 参加者数：86人
- ・平成27年11月14日（土） 13：30～15：30
開催地：うるま市 講師：宮国由紀江 参加者数：146人
- ・平成27年12月3日（木） 13：40～15：30
開催地：名護市 講師：徳元佳代子 参加者数：114人
- ・平成28年2月18日（木） 13：30～15：30
開催地：糸満市 講師：宮国由紀江 参加者数：148人

イ 健康づくり情報の提供

（ア）「いきいき健康あいらんど」の発行

健康情報誌「いきいき健康あいらんど」を年4回（7月、10月、12月、3月）各10,000部発行し、公的機関、金融関係、事業所、病院等へ配布した。モノレール各駅に無料配布コーナーを設置し、モノレールを利用する勤労者、学生、主婦など一般への配布も行った。

また、昨年度に引き続き、沖縄県市町村職員共済組合が組合員への配布用として「いきいき健康あいらんど」36号～39号（各1,000部×4回）を追加印刷した。

平成27年度の各号の特集テーマは以下のとおりである。

Vol.36 健康長寿県復活プロジェクト 救えるがん“大腸がん”

Vol.37 健康長寿県復活プロジェクト カンケイ大アリ!メタボ・糖尿病と歯周病

Vol.38 健康長寿県復活プロジェクト 子ども、若者のロコモ症候群

Vol.39 健康長寿県復活プロジェクト アルコールと肝臓

（イ）健康情報発信（ホームページ）

ホームページでイベント案内やウォーキングガイド、「いきいき健康あい

らんど」の掲載等、県民の健康づくりを支援するための情報を発信した。

また、長寿復活カロリーチェックサイト「上手に選んだらいいさあ」のスマートフォンやタブレット端末に対応したサイトに平成27年4月1日から平成28年3月31日までの間でのべ4095件のアクセスがあった。

(ウ) マスメディアの活用

a 新聞

年2回開催される健康づくり講演会の内容を多くの県民へ提供するために新聞紙面(1ページ)を活用した。

- ・健康づくりライブトーク2015
琉球新報 平成27年9月30日掲載
- ・こころの健康づくりトーク2016
沖縄タイムス 平成28年2月21日掲載

b ラジオ

(a) 「ラジオいきいき健康あいらんど」の制作・放送

専門医の監修の下、健康づくりに関する情報提供の5分間番組(各局週2回放送)を制作し、6ヶ月間放送した。

- ・放送期間：平成27年8月31日～平成28年2月26日
- ・放送局：FM沖縄(月火)、ラジオ沖縄(火水)、琉球放送(木金)
- ・月間テーマ：9月「肥満と病気」、10月「歯の健康」、
11月「ロコモ」、12月「アルコールと肝臓」、
1月「動脈硬化と血管」、2月「すい臓」
- ・パーソナリティー：オッディ、ナツコ

(b) 「健康づくり啓発ラジオCM」の放送

沖縄県の健康課題(食生活の見直しや運動の習慣化により肥満者を減少させる。)を意識してもらうためのラジオCM(20秒8タイプ)を放送した。

- ・放送期間：5ヶ月(5月、7月、9月、11月、1月)
- ・放送局：琉球放送、ラジオ沖縄、FM沖縄
- ・放送本数：出勤退勤時間を中心に1,557本放送

(c) 「こころの健康づくり啓発ラジオCM」の放送

過度のストレスからこころの健康が損なわれ、うつやうつ病などを引き起こさないために一人で悩まず相談しようと呼びかけるラジオCM(20秒2タイプ)を放送した。ナレーターに津波信一を起用し、働き盛りの同世代への共感と優しさを込めた内容とした。

- ・放送月：平成27年10月、平成28年2月
- ・放送局：琉球放送、ラジオ沖縄、FM沖縄
- ・放送本数：出勤退勤時間を中心に564本放送

c テレビ

健康についての問題は、すべての県民が当事者であるということに気づいてもらうため、一般県民を100人起用し、「変えよう！うちなーんちゅの普

通」をコンセプトに健康的な生活習慣の維持増進を呼びかけるための啓発用テレビCM（15秒×4タイプ）を前年度に引き続き放送した。

- ・CM内容：生活習慣病予防対策「食生活」編（A,B）
生活習慣病予防対策「運動」編（A,B）
生活習慣病予防対策「適正飲酒」編（A,B）
沖縄クライシス編（A,B）
- ・放送期間：10ヶ月（平成27年6月～平成28年3月）
- ・放送局：琉球放送、沖縄テレビ、琉球朝日放送
- ・放送本数：番組提供CM(7月～2月)208本、スポットCM1080本、計1288本
- ・その他：YouTube動画広告、県庁前大型ビジョンでの放映
- ・アンケート調査：インターネット調査会社に依頼し、20代～60代の男女各21名合計210名（沖縄県在住者限定）のネットリサーチモニタを対象にCM視聴によるインターネット調査を実施した。

（結果）①CMをテレビで見たことがあるかの質問については、91%が「見た」または「見たような気がする」と回答した。

②CMのインパクトについては88.1%が「感じる」または「どちらかというと感じる」と回答した。

③CMで示した適正值については、21.9%が「普段から3つとも意識して実践している」、39%が「1つから2つ実践している」と回答した。また、13.8%は「今まで実践していなかったし、今後もしないと思う」と回答した。

④上記で「今まで実践していなかったし、今後もしないと思う」を選んだ理由は、「関心がない」が44.8%、「気をつけなくても健康だから」が31%、「継続できる自信がない」が13.8%だった。

⑤CMは沖縄県の長寿復活の意識づけになると思うかの質問に対しては、69.1%が「なると思う」または「どちらかというとなると思う」と回答した。

ウ スマートライフサポート事業（講師派遣）

（ア）地域、職域における指導

地域、職域での健康づくり運動の定着化を図るため、市町村や事業所等の健康づくり講座へ講師を派遣し、実践指導を行った。

東村スマートライフセミナー（住民対象／栄養・運動指導）

- ・開催日：平成27年9月11日
- ・場 所：東村保健福祉センター・カフェ帆風
- ・参加者数：16人

（イ）スマートライフセミナー（受託事業）

a スマートライフセミナー

各共済組合の組合員とその配偶者を対象に生活習慣病の予防を目的とした保健・栄養・運動の一日実践型セミナーを開催した。

(a) 公立学校共済組合沖縄支部

- ・平成 27 年 7 月 28 日 対象：全地区 参加者数:69 人
 - ・平成 27 年 8 月 4 日 対象：全地区 参加者数:66 人
- (b)沖縄県市町村職員共済組合
- ・平成 27 年 7 月 17 日 対象：全地区 参加者数:44 人
 - ・平成 27 年 7 月 18 日 対象：全地区 参加者数:29 人
- (c)地方職員共済組合沖縄県支部
- ・平成 27 年 8 月 14 日 対象：全地区 参加者数:39 人
 - ・平成 27 年 8 月 21 日 対象：全地区 参加者数:32 人

b 栄養講座

公立学校共済組合沖縄支部が主催する「生涯生活設計セミナー」において、食に対する意識を高め、生涯を通じて健康的な食生活が実現できるよう栄養講座を開催した。

平成 27 年 7 月 29 日～7 月 31 日の計 3 回で 207 人が参加した。

c 長寿ライフセミナー

後期高齢者医療制度の被保険者を対象に、それぞれのレベルに応じた健康の維持、増進を図るため、保健・栄養・運動に関する情報を得る機会としてセミナーを開催した。

- ・受託先：沖縄県後期高齢者医療広域連合
- ・平成 27 年 10 月 14 日 参加者数：38 人
- ・平成 27 年 10 月 20 日 参加者数：40 人

エ 助成事業

(ア) 市町村健康づくり運動実践活動助成

市町村が実施している健康づくり事業を支援するため、全市町村を対象に助成応募者を募り、審査のうえ事業費の 10 分の 7（限度額 30 万円）の助成を行った。

平成 27 年度の助成事業実施市町村は宜野湾市外 10 市町村であった。

	市町村名	助成対象事業	開催日	事業内容
1	宜野湾市	宜野湾市はごろもウォーキング	H27. 10. 10	ウォーキング大会により全ての市民が心身共にいきいきと暮らせる都市をめざし、健康への認識を高めると共に運動の機会の充実を図る。 参加者数/174人 会場/宜野湾市海浜公園
2	うるま市	平成 27 年度健康うるま 21 推進事業	H27. 5 ～ H27. 12. 25	市民の健康意識の向上を図り、市民の健康を増進するため標語の公募や健康づくり推進大会を開催した 推進大会では標語の発表やダンスの催しや健康ブースの設置などが行われた。 参加者数/493人 会場/うるま市民芸術劇場「響ホール」
3	伊是名村	平成 27 年度第 9 回伊是名村健康フェア	H27. 9. 6	全村民を対象に福祉行政の制度の周知、健康活動の推進をし、健康について自覚するきっかけの場とすることを目的とし、食育事業及び運動実践の事業を行った。 内容は健康カレーの販売やノルディックウォーキング体験、健康体操やマッサージ体験、講演会など 参加者数/約 600 人 会場/伊是名村産業支援センター
4	北大東村	北大東村健康づくり推進員養成・育成及び健康づくり活動事業	H27. 4～ H28. 3	健康づくり推進員の選出や、養成講座の開講、村民対象の講演会や健診対象者への受診票配布などを行った。 参加者数/246 人 会場/北大東村保健・福祉センター

5	東村	東村健康づくり支援事業「チョイ足しで楽しくカエル運動講座」	H27. 9～ H28. 3	村民の健康づくりを支援する為、健康運動指導士による運動実践講座、管理栄養士による生活習慣病予防を目的とした栄養講座・実習を開催した。 参加者数/207人 会場/東村保健福祉センター
6	本部町	本部町健康ウォーキング大会	H28. 1～ H28. 2	気軽に楽しく継続できるウォーキングの知識を普及させるため、ウォーキング大会及びウォーキングの指導者を育成する講演会を開催した。 参加者数/95人 会場/海洋博公園
7	北中城村	世界遺産中城城跡で健康づくり「城(グスク)ヨガ」	H27. 10～ 12	ストレス社会に生きる現代人の心と体を癒すことを目的に、パワースポットとしての顔を持つ中城城跡でヨガ体験会を開催した。 参加者数/325人 会場/中城城跡
8	与那原町	よなばるてくてくウォーク2016	H28. 1. 31	ウォーキングを通して、町民の体育・スポーツ意識の向上と健康づくりを推進し、参加者相互の交流を図りながら、健康で明るい町づくりを目指すことを目的として実施された。 参加者数/軽便コース(3km)156人、馬車スリッパコース(5km)103人、屋原船コース(7km)105人 会場/与那古浜公園
9	石垣市	運動推進委員育成事業	H27. 7～ H28. 3	市のスポーツ指導員を対象に地域で実践指導ができるよう講習会を開催した。 参加者数/3回計60人 会場/石垣市総合体育館
10	沖縄市	沖縄市健康ウォーキング大会	H28. 1. 17	「歩く楽しさを知る」ことに重点を置き、市民一人一人が健康への意識をもつきっかけづくりを目的にウォーキング大会を開催した。 参加者/374人 会場/東南植物楽園
11	伊平屋村	伊平屋村健康教室開催事業	H27. 7～ H28. 3	毎月1回、名桜大学のヘルスサポーターを2名講師として招き、住民向けの健康教室を開催した。 参加者数/計174人 会場/村内5字公民館

(イ) 健康づくり運動実践活動団体助成

広く県民の健康づくりに寄与するため、地域で健康づくり実践活動を継続している団体に対し、事業経費の助成（限度額 30 万円）を行った。

助成を希望する団体を公募し、審査した結果、平成 27 年度は 4 団体に助成した。次表のとおりである。

	団体名	助成対象事業名	開催日	事業内容
1	南城市 津波古自治会	動作法講座による住民健康意識向上対策事業	H27. 8 ～H28. 3	身体の痛みなどを改善することで、地域の他の健康づくり事業への参加を促すことを目的とし、動作法講座を開催した。 参加者数/8 回計 161 人 会場/津波古公民館
2	沖縄県 歯科衛生士会	第 22 回 「歯きり元気 いい歯の日」	H27. 11. 8	「いい歯」の日(11 月 8 日) にちなんで歯周病予防や口腔ケア等の正しい知識の普及啓発としてイベントを開催。参加者にはスポンサー形式で各ブースを回ってもらった。 参加者数/550 人 会場/サエー経塚シティ
3	日本健康 運動指導士会 沖縄県支部	第 8 回県民健康 公開講座	H27. 10. 12	誰でも楽しく取り組める県民体操や体力測定、運動相談などを通して県民の健康づくりの意識を高める目的で県民健康公開講座を行った。 参加者数/1000 人 会場/豊見城市民体育館
4	沖縄県医療ソーシャル ワーカー協会	住み慣れた地域 で自分らしい生活 をするために ～こころ・からだ・くらしを支 える制度を知ろう～	H27. 10. 10	地域住民に対して医療制度やソーシャルワーカーについての情報を、パネル展示などを使いながら紹介するイベントを開催した。 参加者数/240 人 会場/イオン南風原店
5	西原町食生活改善 推進員協議会	西原町食生活改善 推進員協議会 設立 10 周年特別 健康展	H28. 1. 15	結成 10 周年の節目に、これまでの知識や技能を広く住民に周知する取り組みとして特別健康展を開催した。 参加者数/240 人 会場/西原町役場

(2) 臓器移植推進事業

(腎臓移植の状況)

沖縄県における慢性透析患者は毎年増加し、平成 25 年 12 月末現在では約 4,300 人(全国約 31 万人)、特に糖尿病による透析患者数は増加の一途をたどっており、その内約 250 人(平成 28 年 2 月現在)が(社)日本臓器移植ネットワークに献腎移植希望登録を行っている。

平成 9 年に臓器の移植に関する法律が施行されてから、平成 22 年 7 月 17 日に臓器移植改正法が施行されるまでの約 13 年間で、脳死下臓器提供件数は 86 例(全国データ)であったが、臓器移植改正法の施行後は急増し、全国で平成 23 年度 44 例、平成 24 年度 45 例、平成 25 年度は 47 例の脳死下臓器提供があった。平成 26 年度においては、県内初の脳死患者からの臓器提供が沖縄県立中部病院で実施された。

ア 臓器移植コーディネーター受託事業

臓器移植連絡調整者設置事業を沖縄県から受託し、臓器移植コーディネーターを設置して、移植に関わる医療機関の医師等との情報交換並びに移植医療の普及啓発の強化を図った。

(ア) 臓器提供者（ドナー）発生時の対応（あっせん業務）

平成27年度の本県におけるドナー情報数は、昨年度より7件多い17件であった。その内、1人の臓器提供者（ドナー）から心停止後、県内2人（レシピエント）に腎臓移植が行われた。

数字：件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
情報数	0	1	6	0	0	3	1	3	1	1	1	0	17
移植数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2

(イ) 臓器移植推進委員会の開催

臓器移植医療の専門的立場からの指導助言を受け、臓器の移植医療に対応できる組織体制を構築する必要があることから、専門医による推進委員会を前年度に引き続き開催した。

イ 移植医療機関の移植医療体制整備事業

(ア) 病院啓発

県内医療機関を延べ155回巡回し、移植関連情報の提供や院内体制の充実に努めた。

(イ) 臓器提供についての調査

当年度は、下記の施設で調査を実施した。

那覇市立病院（1月26日～29日）

(ウ) 臓器提供の現場を知るセミナーの開催

臓器提供の増加のため、死生観やコミュニケーションスキルの講義を通して、課題である急性期における終末期医療の場面で活動できる医療スタッフの育成を目指し、セミナーを開催した。

「臓器提供の現場を知るセミナー」

開催日時：平成27年11月11日（水）午前11時～12日（木）午前12時

開催場所：喜瀬ビーチパレスホテル

参加者：23人

(エ) 移植医療セミナー（TPM）への派遣

移植医療推進のため、臓器提供者（ドナー）の発見、脳死診断、ドナー家族へのアプローチ法等を学習するセミナーへ救急医等の専門家を派遣した。

派遣先：スペイン バルセロナ

派遣者：宮川 幸子（県立南部医療センター 救急科医師）

研修期間：平成27年11月9日（月）～13日（金）

ウ 県民への普及啓発事業

(ア) 臓器提供意思表示カードの配布及び所持・意思表示欄への記載推進

臓器提供意思表示カードの所持及び意思表示欄への記載を推進するため、県、市町村及び関係機関の協力を得て、カードの設置や健康保険証・自動車免許証等への記載推進について普及啓発を行った。

- ・意思表示カードの補充：市町村、各銀行支店等へカードの補充を行った。
- ・沖縄県レンタカー協会へ「グリーンリボンドライブステッカー」990枚を配布した。
- ・サンエー62店分の意思表示等資料の配布を行った。
- ・意思表示関連ブックカバーを作成し、ジュンク堂、戸田書店、宮脇書店など県内の書店13店舗へ配布した。
- ・「臓器提供意思表示欄」への記載推進のため、新聞広告に年間を通して掲載した。

琉球新報・・・168回

沖縄タイムス・・・72回

(イ) 臓器移植推進月間(10月)行事

毎年10月に実施している「臓器移植普及推進月間行事」を沖縄県、(財)沖縄県アイバンク協会、(一社)沖縄県医師会、(一社)沖縄県腎臓病協議会、沖縄県臓器移植推進協議会、(公社)日本臓器移植ネットワークなどとの共催により次のとおり実施した。

a 臓器移植を知るシンポジウム2015の開催

テーマ：「話し合おう！あなたの勇気でつながる命」

開催日時：平成27年10月18日(日) 午後2時～午後4時

開催場所：浦添市てだこ小ホール

参加者：131人

内 容

【授賞式】

公募によって選ばれたシンポジウムキャッチフレーズ作品及び「沖縄グリーンリボン賞」、グリーンリボンアート賞など優秀作品への授賞式を行った。

【基調講演】

「脳が死ぬってどういうこと？」

講師：名取 良弘(飯塚病院 副院長 脳神経外科部長)

【心臓移植者体験発表】

講師：安里 猛

【らい君を救う会】事務局共同代表

講師：當山 みゆき

【ミニコンサート】

シンガーソングライター D@LL

【質疑応答】

和氣 亨(県立南部医療センター 医師)

名取 良弘(飯塚病院 副院長)

平川 達二(沖縄県臓器移植コーディネーター)

屋嘉部 生子(豊見城中央病院 レシピエント移植コーディネーター)

(ウ) 移植医療へのメッセージ「沖縄グリーンリボンアート」作品展の開催

シンポジウム会場や公的機関において、作品展を開催し移植医療の尊さについて県民へ啓発を行った。

・沖縄県庁県民ホール：平成27年9月14日(水)～18日(日)

・浦添市てだこ小ホール：平成27年10月18日(日)

・沖縄県立中部病院：平成27年11月19日(木)～11月26日(金)

(エ) イベントの活用

臓器提供意思表示カード及びパンフレットの配布を下記のとおり行った。

「タクシーの日」

開催日時：平成27年8月5日

開催場所：パレット久茂地前

「県民健康フェア」

開催日時：平成27年8月9日

開催場所：沖縄コンベンションセンター

「沖縄全島エイサーまつり道ジュネー」

開催日時：平成27年9月4日（金）

開催場所：コザミュージックタウン前

「琉球ゴールデキングス主催試合」

開催日時：平成27年10月17日（土）

開催場所：沖縄市営体育館

「ものづくりフェスタ」

開催日時：平成27年10月17日（土）～18日（日）

開催場所：波の上うみそら公園

「沖縄県警察運転免許センター」

開催日時：平成27年12月1日

(オ) 移植医療情報の提供

臓器提供意思表示啓発ラジオCMを制作し放送をおこなった。

テーマ：「聞いてみよう、家族の気持ち」娘篇、母親篇、父親篇各20秒

放送期間：平成27年9月～平成28年3月

放送局：FM沖縄（85本）、ラジオ沖縄（63本）、RBCiラジオ（63本）

放送本数：計211本

エ 日本臓器移植ネットワーク助成事業（単年度事業）

(ア) 地域支援事業

- ・「院内移植情報担当者会議」の開催

開催日時：平成27年10月13日（火）

開催場所：沖縄県庁 4階 会議室

参加者：28人

内 容：開会のあいさつ

沖縄県保健医療部 薬務疾病対策課長 玉城 宏幸

講演「日本臓器移植ネットワークより報告」

鮫島 由紀子（西日本支部コーディネーター）

講演「沖縄県の臓器提供の現状」

平川 達二（沖縄県移植コーディネーター）

講演「臓器移植研修の報告」

玉城 正弘（豊見城中央病院 ICU 医師）

講演「脳死下臓器提供の経験を通して」

宮里 均（県立中部病院 腎臓内科部長）

閉会のあいさつ

沖縄県臓器移植推進協議会 会長 當間 茂樹

- ・ 「臓器移植を知るシンポジウム in 宮古島」の開催
開催日時：平成28年2月27日（土） 午後2時～午後4時
開催場所：宮古島市中央公民館 大ホール
参加者：15人
内 容：講演「沖縄県の献腎移植の現状」
講師 和氣 亨（沖縄県立南部医療センターリウマチ科部長）
講演「臓器提供する方、受ける方」
講師 宮里 均（沖縄県立中部病院 腎臓内科部長）
講演「腎移植ってどんな治療？」
講師 大田 守仁（豊見城中央病院 外科部長）

オ 助成事業

（ア） 組織適合性検査の助成

沖縄県立中部病院や豊見城中央病院で、組織適合性検査を受けた臓器移植希望者17人に対して、一人2万円の助成を行った。

（イ） 沖縄県腎臓病協議会への助成

沖縄県腎臓病協議会が実施するQOL向上を目指した学習会や講演会等費用の一部を助成した。

カ 賛助会員の募集

賛助会員（1口：3万円）加入の協力を、医療機関及び企業団体等に呼びかけたところ、22団体から25口、75万円の会費収入があった。

(3) ファミリーハウス事業

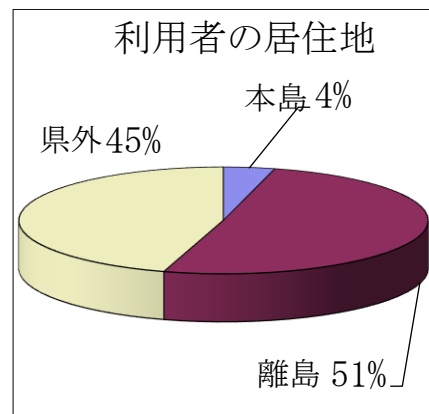
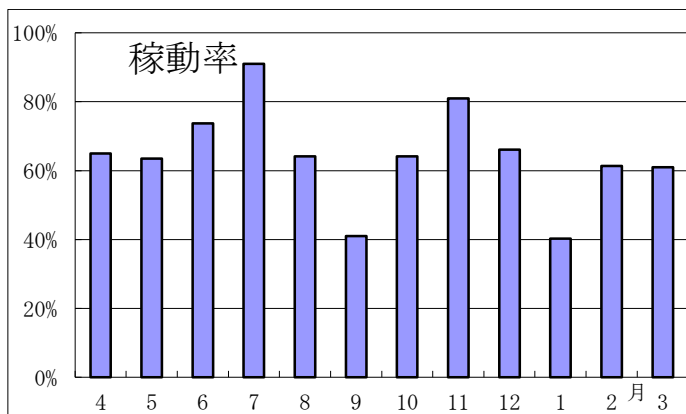
離島など遠隔地から「南部医療センター・子ども医療センター」等に入院又は受診する難病等の子どもや付添い家族のための滞在施設として、ファミリーハウス「がじゅまるの家」の運営をNPO法人「こども医療支援わらびの会」に委託して行い、病児及び家族の経済的負担や精神的不安の解消に努めた。平成27年度の稼働率や利用者数等は次のとおりである。

＜ファミリーハウス「がじゅまるの家」利用状況＞

月	営業日数	利用室数	稼働率	利用者数（人）				
				沖縄県			県外	合計
				本島	離島	計		
4	30	195	65.0%	11	151	162	176	338
5	31	197	63.5%	17	125	142	179	321
6	30	221	73.7%	11	107	118	208	326
7	31	197	91.0%	15	132	147	357	504
8	31	199	64.2%	2	185	187	219	406
9	30	123	41.0%	6	110	116	63	179
10	31	199	64.2%	41	173	214	112	326
11	30	243	81.0%	0	287	287	77	364
12	31	361	66.1%	2	303	305	56	361
1	31	250	40.3%	3	142	145	105	250
2	29	178	61.4%	14	188	202	111	313
3	31	189	61.0%	41	135	176	161	337
計	366	2,552	64.4%	163	2,038	2,201	1,824	4,025

※年度別稼働率 H20:56.7%、H21:57.0%、H22:77.7%、H23:70.1%、H24:71.9%、H25:71.6%、H26:58.5%

沖縄県	2,201	鹿児島県	1,015	山口県	162	茨城県	83
岡山県	40	大分県	40	広島県	37	熊本県	37
三重県	33	大阪府	32	兵庫県	28	福岡県	22
和歌山県	18	石川県	16	愛知県	16	神奈川県	15
岐阜県	10	他7都府県	22	外国人	198	計	4,025



(4) 勤労者福祉事業（就労支援事業）

勤労者の福祉の向上等に取り組む団体が行う事業で、地域において勤労意欲のある者に対する就労の支援に対し、その必要経費を助成した。

ア 助成団体：（公財）沖縄県労働者福祉基金協会（以下「労福協」という。）

イ 労福協への助成事業

(ア) ワンデイセミナー（就職力アップ）

・メイク実習・履歴書作成等

実施回数：10回

場 所：グッジョブセンターおきなわ3階（那覇市）

受講者：78人

(イ) 若年無業者職業基礎訓練事業

・日常生活習慣の取戻し・訓練

実施回数：3ヶ月セミナー

場所：グッジョブセンターおきなわ3階（那覇市）

参加者数：332人

(ウ) 中間的就労

・農作業や軽作業・接客業体験

実施回数：25回

場所：ソーシャルファーム糸満

参加者数：107人

(エ) 無料職業紹介事業

・定着支援と支援に係る研修

実施回数：随時

場所：労福協無料職業紹介所、研修は年一回（県外）

・無料職業紹介に係るセミナー

実施回数：2回

(オ) ゆんたく会等居場所づくり支援

実施回数：1回

場所：グッジョブセンターおきなわ3階（那覇市）

参加者数：4人

(カ) 調査研究

・奨学金に関する調査

実施回数：随時

場所：グッジョブセンターおきなわ3階（那覇市）

参加者：ヒアリング8名、アンケート245名

(キ) 調理師資格取得試験準備講習会

実施回数：41日

場所：グッジョブセンターおきなわ3階（那覇市）

参加者数：94人

(ク) 原付免許取得直前講習

実施回数：5日間（2回）

場所：グッジョブセンターおきなわ3階（那覇市）

参加者数：23人

(ケ) パソコン検定取得直前講習

実施回数：10日間（1回）、5日間（1回）

- 場所：グッジョブセンターおきなわ
参加者：78名
- (コ) パソコン初歩セミナー
実施回数：年5回 (通算45日間)
場所：グッジョブセンターおきなわ3階 (那覇市)
受講者：149人
- (サ) キャリア教育 (ティード・ワラビ〜教室)
実施回数：7日間
場所：沖縄大学 (那覇市)
(公社) 那覇市母子寡婦福祉会 (那覇市)
参加者数：77人
- (シ) 高校生への就職意識啓発セミナー①
実施回数：5日
場所：南部農林高校
参加者数：199人
- (ス) 高校生への就職意識啓発セミナー②
実施回数：12回
場所：ソーシャルファーム糸満
参加者：32人
- (セ) 相談員スキルアップセミナー
実施回数：6回
場所：グッジョブセンターおきなわ3階 (那覇市)
参加者数：342人

事業の延べ参加者数：1,515人
平均就職率 (進路決定者含む)：50.5%

※ 労福協 就労サポートセンター事業の実施状況

セミナー・研修名	4月～3月	合格率	就職率
	延べ人数		(進路決定者を 含む)
① ワンデイセミナー (就労支援)	78		58.1%
② 若年無業者職業基礎訓練	332		28.6%
③ 中間的就労	107		
④ ゆんたく会等居場所づくり支援	4		
⑤ 調査研究	ヒアリング8社		
	アンケート245名		
⑥ 調理師資格取得試験準備講習会 (那覇市)	94	41.7%	41.7%
⑦ 原付免許所得直前講習	23	75.0%	25.0%
⑧ パソコン検定取得直前講習	78	33.3%	42.9%
⑨ パソコン初歩セミナー	149		35.4%
⑩ 子どもへのキャリア教育	77		
⑪ 高校生への就職意識啓発セミナー	231		
⑫ 相談員スキルアップセミナー	342		
合計	1515		

(5) 現有資産の活用

ア 事業団が所有する施設（旧健康増進センター）を民間フィットネス事業者（株式会社フィットネスプロモーション）へ定期賃貸借契約（平成17年から15年間）により賃貸した。また、敷地内から湧出する温泉は、同事業者運営施設ジスタス浦添（平成27年度施設利用者数529,500人）に供給し、県民の健康増進に活用された。

イ 温泉をくみ出す際に生じる水溶性天然ガスを燃料とするコージェネレーション事業（分散型発電）設備設置の土地（132㎡）を鉱業権者株式会社シントーへ事業用定期借地権設定契約公正証書（平成22年6月から10年間）により賃貸した。

なお、事業開始については、地域住民の承諾が得られず平成22年6月以降発電設備は運転停止中である。

(6) 資金運用

事業団資産運用基準（平成14年3月28日制定）に基づき、リスク軽減措置を講じたうえで、資金の安全かつ効率的な運用に努め、平成27年度は当初計画を上回る収入を確保することができた。日経平均株価に連動する債券については、早期償還された後も後継債券を有利に購入することができたが、為替に連動する債券は長期金利の低下に伴い利率が下がったため、実績では前年度の運用益を下回った。

ア 損益ベース（正味財産増減計算書から）

運用の種類	平成27年度				平成26年度				対前年度増△減	
	運用額 (千円)	構成 比	運用益 (千円)	利回 り	運用額 (千円)	構成 比	運用益 (千円)	利回 り	運用額 (千円)	運用益 (千円)
銀行預金	1,720,000	22.4%	4,646	0.3%	1,720,000	23.0%	4,930	0.3%	0	△284
有価証券	5,960,000	77.6%	206,089	3.5%	5,760,000	77.0%	250,779	4.4%	200,000	△44,690
計	7,680,000	100%	210,735	2.7%	7,480,000	100%	255,709	3.4%	200,000	△44,974

※内、有価証券1億円（3月4日新規購入、利率6.6%）の運用は、平成28年度からとなる。

イ 資金ベース（収支計算書から）

運用の種類	平成27年度				平成26年度				対前年度増△減	
	運用額 (千円)	構成 比	運用益 (千円)	利回 り	運用額 (千円)	構成 比	運用益 (千円)	利回 り	運用額 (千円)	運用益 (千円)
銀行預金	1,720,000	22.4%	4,646	0.3%	1,720,000	23.0%	4,930	0.3%	0	△284
有価証券	5,960,000	77.6%	206,089	3.5%	5,760,000	77.0%	250,779	4.4%	200,000	△44,690
計	7,680,000	100%	210,735	2.7%	7,480,000	100%	255,709	3.4%	200,000	△44,974

※内、有価証券1億円（3月4日新規購入、利率6.6%）の運用は、平成28年度からとなる。

